

# 第79回 四国高等学校陸上競技対校選手権大会

## 競 技 注 意 事 項

(四国化成 MEGLIO スタジアム 香川県立丸亀競技場)

### 1. 競技規則について

本大会は、2026年日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会申し合わせ事項によって行う。また、本大会をWRkの対象競技会とする。(ただし、リレー競技と投てき競技を除く)

### 2. 練習について

- 練習は、指定された練習場所を使用、プログラム記載の「練習会場使用日程」に従い実施すること。
- 主競技場内での練習は競技役員の手配に従って行い、補助競技場については練習会場係の手配に従うこと。特に、投てき練習については、監督の付き添いのもと事故防止に努めること(選手のための練習は認めない)。
- 棒高跳の練習については、大会当日 9:00から主競技場内を使用することができる。
- 雨天練習場の使用について・・・シート等の使用により独占的な使用を絶対にしない。
  - 2～4レーンは第3ゲートから第2ゲートの同一方向走行とする。
  - 1、5レーンは周回のみとし、逆走は絶対にしない。
  - ハードルは使用できない。

### 3. 招集について

- 招集所は、第3ゲート内側に設ける。
- 招集完了時刻は競技時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	予 選		決 勝	
	招集開始 (点呼開始)	招集完了 (移動開始)	招集開始 (点呼開始)	招集完了 (移動開始)
トラックの部	30分前	20分前	25分前	15分前
フィールドの部 (棒高跳を除く)			50分前	40分前
フィールドの部(棒高跳)			60分前(現地招集)	
混成競技			20分前	

- 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものととして処理する。
- 招集の手順
  - 競技者は、招集開始時刻に、招集所競技者控所で待機し、点呼を受ける。その際、競技者係にアスリートビブス・スパイク・衣類・持ち物等の確認を受ける。
  - 2種目を同時に兼ねて出場する(競技終了時刻と次種目の招集開始時刻が重なる)競技者は、あらかじめ本人または代理人が競技者係(招集所)に2種目同時届けを提出する。
  - リレー競技に出場するチームは、招集所でリレーオーダー用紙を受け取り、必要事項を記入し、その種目の招集完了時刻の1時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。また、次のラウンドにおいても予選に進んで行うこと。
  - 欠場する場合は、招集開始時刻までに競技者係(招集所)に欠場届を必ず提出すること。
  - 混成競技は、第1日目・第2日目とも第1種目は競技者係が招集所にて招集するが、それ以降の種目については、混成競技係が混成競技控え場所にて点呼・確認後、各競技場所に誘導し、担当審判員に引き継ぐ。(混成競技控え場所は「メインスタンド1F 第2南トレーニングルーム」とする。)
  - 競技者控所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
  - 棒高跳の点呼は競技場で行い、点呼後は公式練習に入る。公式練習は3回に分けて実施する。

### 4. 競技について

- 競技者は、当該種目以外グランド(競技区域)内に立ち入ることはできない。
- 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
- トラック競技において、欠場者がでた場合はそのレーンを空けて行う。
- トラック競技(セパレート種目)において、8名(8チーム)以内の場合は2～9レーン、9名(9チーム)の場合は1～9レーンで行う。
- トラック競技の計測は、全て写真判定装置(全自動電気時計 1/100)で行う。
- 4×100mリレーの第2・第3・第4走者は、主催者が用意するマーカー(1カ所)を使用することができる。そのマーカー以外は使用してはならない。

- (7) 4×400mリレーの第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと。コーナートップとは、第3コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点のことである。この後は、並んだ順序を変えてはならない。なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。
- (8) 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマークを、2カ所置くことができる。マークはそれぞれの審判員が現地で渡す。それ以外は使用してはならない。
- (9) 三段跳の踏切板は、男子は11、13m、女子は10m地点に設置する。
- (10) 携帯電話等の通信機器、ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。
- (11) スタートについては、2026年度ルールに準ずる。
- (12) 全国高等学校陸上競技選手権大会代表者決定試技（走高跳、棒高跳）の代表者決定の方法は、ジャンプオフによるものとする。

## 5. 競技用シューズについて

- (1) シューズとは、スパイク、ランニングシューズを含むものである。
- (2) スパイクの長さは9mm をこえてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は12mm をこえてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が4mm 以内でなければならない。また、スパイクの数は11本以内であれば何本でもよい。
- (3) シューズの靴底の厚さは20 mm以下とする。ただし砲丸投、円盤投、ハンマー投については、厚さを問わない。また、競歩については40 mm以下とする。

## 6. 抗議と上訴について

- (1) 競技中に起きた競技者の行為または順位に関する抗議は、TR8.2 に基づき、正式に結果が発表されてから30分以内に、同一日に次のラウンドが行なわれる種目では15分以内に、当該競技者自身または、顧問が抗議担当総務員に申し出て、当該審判長に対して口頭でなさなければならない。
- (2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。審判長裁定を不服としてさらに上訴する場合は、当該競技者自身または、顧問が預託金 20,000 円を添えて「上訴申立書」を抗議担当総務員を通して Jury に提出しなければならない。

## 7. アスリートビブスについて

アスリートビブスは指定された大きさ(縦16cm×横24cm)で、ユニフォームの胸部と背部に付けること。その際、折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。また、トラック競技者は、写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、パンツの左右後方に付けること。また、3000m以上の種目と4×400mリレーの第2・第3・第4走者、混成競技の最終種目については、主催者の用意したアスリートビブスを胸部に付けること。

## 8. 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

- (1) 日本陸上競技連盟「競技会における広告および展示物に関する規定」を適用する。
- (2) 競技役員に指摘された場合は、その指示に従うこと。

## 9. 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝ならびに跳躍・投てき競技の決勝については、主催者が公平に組み、レース順・試技順を決定する。その結果を記録掲示板に掲示する。
- (3) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいても、その競技会のリレーまたは、他の競技種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち、少なくとも2人は当該リレー種目に申し込んだメンバーでなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代することができる。  
また、リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームで参加しなければならない。
- (4) トラック競技においてプラス出場者を決める場合、その最下位で同成績(判定写真を拡大し、細部まで読み取り着差を判定し、着差がない。)がでた場合は、下記の方法で決定する。
  - ① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH・4×100mR・4×400mR 競技の場合  
同成績者については、次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同成績者または、代理人によって抽選する。
  - ② ①以外の種目の場合  
同成績者については、すべて次のラウンドに進めることとする。

## 10. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具はすべて主催者が用意した物を使用しなければならない。但し、棒高跳用ポールに限り個人所有の物を使用することができる。ポールの検査は点呼時に跳躍審判員が行う。投てき用具については、競技場に準備されていない型番に限り検査を実施し、使用を認める。持ち込みを希望する者は、当日招集開始1時間前までに、用具を第1ゲート用器具庫に持参すること。検査に合格した用具は、参加競技者で共有できるものとする。競技終了後に第1ゲート用器具庫で返却する。
- (2) 練習用として個人の用具は主競技場に持ち込んではいならない。

## 11. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳	男子	1m70 1m80 1m90(練習)	1m75 1m80 1m83 1m86 1m89	以降 3cm
	女子	1m40 1m50 1m60(練習)	1m45 1m50 1m53 1m56 1m59	以降 3cm
棒高跳	男子	3m20 4m00 4m40(練習)	3m30 3m60 3m90 4m00 4m10	以降 10cm
	女子	2m00 2m70、3m40(練習)	2m20 2m40 2m60 2m80 3m00	以降 10cm

- (1) 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、上記のバーの上げ方とする。
- (2) 第1位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm 単位とする。なお、全国大会出場決定のための試技も行う場合がある。

## 12. 混成競技におけるバーの上げ方

走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。但し、状況により変更する場合がある。設定より低い高さを希望する場合は練習開始前に申し出ること。(男子 1m50・女子 1m20 までは 5cm 単位でバーを上げる。)

男子8種	1m45(練習) 1m50 1m53 1m56 1m59 1m62 1m65	以降 3cm
女子7種	1m15(練習) 1m20 1m23 1m26 1m29 1m32 1m35	以降 3cm

## 13. 競技場の入退場について

- (1) 競技者の入退場は、マーシャルの指示に従うこと。
- (2) フィールド競技の競技者は当該競技役員およびマーシャルの指示に従って入退場する。但し、棒高跳の選手は各自で入場する。
- (3) フィールド競技の入賞者は当該競技役員が、トラック競技の入賞者はマーシャルが表彰者控え場所に誘導する。

## 14. 表彰およびインタビューについて

- (1) 各種目第3位までの入賞者はチームジャージやチームシャツで表彰式に出席すること。その際、入賞者は決勝終了後すぐに入賞者控え場所(メインスタンド1F正面玄関ロビー内)で待機し、係員の指示を受けること。
- (2) 入賞者のインタビューは、入賞者控え場所で行う。
- (3) 入賞者の得点は、1位 8点、2位 7点 3位 6点・・・8位 1点とする。
- (4) 男子・女子それぞれ最優秀選手の表彰を行う。

## 15. その他

- (1) 大会期間中競技場で発生した傷害や疾病はメインスタンド1Fの医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者はマイナ保険証等、被保険者資格の確認ができるものを持参すること。
- (2) 更衣は雨天練習場の更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。
- (3) 記録証の交付を希望する競技者は、メインスタンド1F記録室の記録証交付係に記録証交付願及び交付料金500円を添えて申し込むこと。交付料金500円を添えて申し込むこと。
- (4) 記録は正面玄関2Fの記録掲示板に掲示する。
- (5) 競技場内でテントを張れる場所は観客席芝生スタンドとバックスタンド2F 通路から上の通行の妨げにならない場所に限る。横断幕・部旗・のぼり等については、メインスタンドを除くバックスタンド2F 通路より上、ただし、個人名入りの横断幕等は禁止する。
- (6) 集団での連呼応援は、メインスタンドでは禁止とし、フィールド種目の妨げにならないようにすること。
- (7) その他の詳細については事前監督会議で説明する。
- (8) 届け出用紙は以下の場所に用意してある。

2種目同時出場申請書・欠場届・リレーオーダー用紙・・・・・・招集所競技者控え場所  
記録証明書交付願・・・・・・・・・・・・記録室

## 16. 練習会場使用日程

	6月16日(金)	6月17日(土)	6月18日(日)	6月19日(月)
主競技場	12:00～17:00 トラック競技 跳躍競技 13:00～16:00 やり投	7:30～9:00 トラック競技 跳躍競技	7:30～9:00 トラック競技 跳躍競技	7:30～9:00 トラック競技 跳躍競技
補助競技場	12:00～17:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 12:00～13:30 ハンマー投 13:30～16:00 円盤投	7:30～17:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 8:20～9:20 女ハンマー投 11:20～12:20 男ハンマー投 13:50～14:50 女円盤投 15:00～16:00 男円盤投 16:00～17:00 女やり投	7:30～17:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 7:30～9:20 男円盤投 9:30～11:50 女やり投 14:00～16:00 男やり投	7:30～17:00 トラック競技 跳躍競技 砲丸投 8:00～11:50 男やり投

\* 上記、補助競技場の投擲練習時間については、フィールド<sup>①</sup>内の規制を行い、投擲練習を優先する。  
審判員の指示に従い、全ての競技者は安全に留意すること。

(補助競技場・雨天練習場の使用について)

① 補助競技場の使用について(レーンの使用については以下の通りである。)

- ・1～2レーンは、周回練習のみ使用可とする。但し、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。(集団ジョグは不可。)
- ・3～4レーンは、短距離、リレー練習を優先する。
- ・5～6レーンは、400mHを優先する。(大会2日目まで)。
- ・テント等を設営しての独占的な使用をしない。

② 雨天練習場の使用について

- ・ピストルの使用は禁止する。
- ・シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ・ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は補助競技場で行うこと。
- ・2～4レーンは第3ゲートから第2ゲートへの同一方向走行とする。
- ・1、5レーンを周回のみとし、逆走は絶対にしないこと。
- ・ハードルは使用できない。